

2021年7月30日第75回運輸政策セミナー
ワーケーション～働き方と地域活性化～
佐藤理事長 開会挨拶

皆様こんにちは。運輸総合研究所理事長の佐藤です。

本日も、ご多用の中、大変多くの皆様にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日のセミナーでは、「ワーケーション～働き方と地域活性化」をテーマとして、4名の講師の方々をお迎えしております。

最初に、関西大学社会学部の松下教授に「アフターコロナのワークプレイス、ワークスタイル」と題してご講演いただきます。

松下先生は、新しいワークプレイス、ワークスタイルについて、メディア論、都市論、コミュニケーション・デザインなどの視点から研究されています。交通運輸観光関係者にとっては、新鮮で刺激的なお話が伺えるのではないかと期待しております。

次に、日本航空（株）人材戦略部の東原さんに「交通事業者としてのワーケーションの取組み」と題してご講演いただきます。

日本航空は、ビフォアコロナ時代から他社に先駆けて、働き方改革の一環として「ワーケーション」を実践してこられました。このことから、東原さんは経団

連でもご講演されていますが、本日は、この「ワーケーション」というものが、社業の航空運送事業そのものや、同社が力を入れている「地域との連携」にとても、大いに役立つものであったというお話を伺えればと思っております。

3番目に、(株)南紀白浜エアポートの岡田社長に「ワーケーションで地域活性化～空港型地方創生の取組み」と題してご講演いただきます。

皆様ご承知のとおり、岡田さんは「空港コンセッション」のスペシャリストであります。関西国際空港と伊丹空港のコンセッションを成功に導いた後、現在は南紀白浜空港の運営を受託した空港運営会社の陣頭指揮を執っておられるわけですが、この「空港コンセッション」のスペシャリストが和歌山県とタイアップして「ワーケーション」を活用しようとされたところに、働き方改革を超えた「ワーケーション」の意義と可能性を見ることができないのではないかとと思っております。

4番目に、(株)プリンスホテルの赤松執行役員に「受入れ施設として取り組む「参加・共創型」ワーケーション」と題してご講演いただきます。

プリンスホテルが所属する西武HDは、昨年12月、JR東日本と連携して「ワーケーション」などポストコロナ時代の新しい生活様式に対応した新規事業を共同で開発すると発表されました。本日は、こうした戦略的な枠組みの中におけるプリンスホテルの取組みについてお話を伺えればと思っております。

最後に、4名の方々のご講演の後、当研究所の山内所長をコーディネーターとして、皆様方とのディスカッションと質疑応答を行います。視聴者の皆様には、ご意見やご質問をどしどしお寄せいただければと思います。

本日のセミナーが、ご参加いただきました多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなることを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

それでは、登壇者の皆様、視聴者の皆様、どうぞよろしく願いいたします。